

# 発達障がいについて知ろう

## 発達障がいとは…

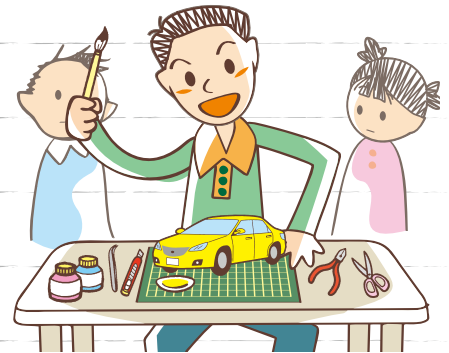
自閉スペクトラム症(ASD)(広汎性発達障がい(自閉症、アスペルガー症候群を含む))、学習障害(LD)、注意欠如多動性障害(ADHD)、その他これに類する脳機能障がいです。

また、いくつかの発達障がいの特性を有する方もいますので、どのような配慮が必要かは個人により大きく違います。

## 発達障がいの特性は？

### ● 自閉スペクトラム症(ASD)

コミュニケーションの場面で、言葉や視線、表情、身振りなどを用いてお互いにやりとりしたり、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを読み取ったりすることが苦手です。



また、特定のことに強い関心を持っていたり、こだわりが強かったりします。

感覚の敏感さを持ち合わせている場合もあります。



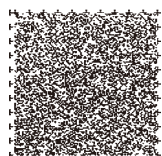
### ● 学習障害(LD)

全般的な知的発達には問題がないのに、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」、「計算する」など特定の学習のみに困難が認められる状態です。



### ● 注意欠如多動性障害(ADHD)

発達年齢に比べて、落ち着きがない、待てない(多動性-衝動性)、注意が持続しにくい、作業にミスが多い(不注意)といった特徴があります。



《音声コード》

## ● その他の発達障がい

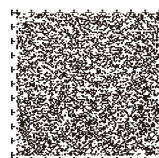
トゥレット症候群(まばたき、顔しかめ、首振りのような運動性チックや咳払い、鼻すすり、叫び声のような音声チック)を主症状とするタイプのものも発達障がいの定義に含まれます。

## こんなことに困っています…

- 読むことや書くこと、計算することなどのうち、いずれかだけが難しいという方もいます。
- 長時間座っていることや、じっとしていることが苦手で、そわそわと休みなく動いてしまう場合があります。
- 外見からは分かりにくいいため、障がいを原因とするパニック症状等も「しつけができていない」などと誤解されることがあります。

## 理解してほしいこと

- ◆ 不安の強い方や、感覚が敏感な方もいますので、適度な声の大きさと、笑顔で対応しましょう。
- ◆ 同時にたくさんのことを指示されると、適切な順位を付けられない場合があります。分かりやすい言葉で伝えたり、取り組む順番や開始時間などをメモで渡すなどの配慮が必要です。
- ◆ たくさんの方がいる場所や狭い空間などで相談や打合せを行っている際に、パニック症状を起こす方もいます。この場合、場所を変え、落ち着くまで時間を取り、落ち着いた後に再開するか、日を改めるかなどについて、本人の意向を確認し対応します。
- ◆ 子どもの頃に適切な診断やサポートを受けることができず、見過ごされ、大人になってから分かるケースもありますが、本人や家族、周囲の方が特性に応じた日常生活や学校・職場での過ごし方を工夫することで、持っている力を活かしやすくなったり、日常生活の困難を軽減させることができます。



《音声コード》